

動物 ネコ

猫アレルギー、猫嫌いの人には迷惑ですが、ネコで地域づくり・地域おこしは効果が絶大です。ここだけ戦略と自力戦略とリンカーン戦略と想い出戦略と体験戦略といつでも戦略とネット戦略です。

●和歌山電鐵のたま駅長

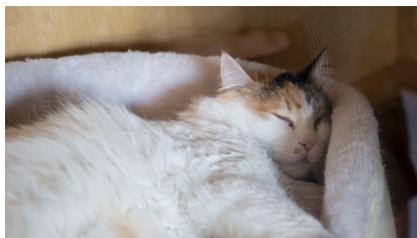
和歌山電鐵の貴志川線は南海電鐵の傘下でしたが、地方私鉄の典型で、平成18年に廃線の予定でした。それを県と和歌山市が支援し、岡山の両備鉄道の運営で継続したは良いものの、前途多難でした。経営移管後、デザイン上の水戸岡さん（JR九州で実績多数）のアドバイスで「いちご電車」を走らせます。「金のいちご」「銀のいちご」をちりばめていく10年構想でしたが、ぱっとしません。

そんな中、終点の貴志駅にあるよろず屋、小山商店の居候猫「たま」が駅に出入りしており、コアなネコ好きが貴志駅詣でしつづつあったのですが、和歌山電鐵の経営者がそれに注目したのです。平成19年の「たま駅長」誕生後、あれよあれよという間にどっと観光客が増えました。これといって観光資源のない沿線ですが、終点の貴志駅に人を誘導する作戦は大あたりでした。南海時代、運行実績は年々下がっていましたが、和歌山電鐵になってか

らは増収です。定期利用者は増えていませんが、観光客には正規運賃で乗ってもらえるのでかなりの増収になります。その後「たま」は重役に昇格しました。貴志駅は「たまミュージアム」として改装され、カフェもできました。駅舎もネコの顔で、ネコ神社も新設されました。そのたまま平成27年夏、あの世に旅立ってしまい、駅長代行だった「ニタマ」が駅長に昇格しています。

これを一時のブームに終わらせないためには、ネコに関連のある地域おこしから、ネコに関連のある地域づくりに広げ、まちと沿線全体でネコ好きの人との親和性を高める工夫が必要でしょう。おそらく将来は、ネコづくしのまち常滑などネコにゆかりの土地とタイアップしたり、各地のペットショップやネコカフェとタイアップし

和歌山電鐵貴志駅 和歌山県和歌山市



ニタマ

たま電車



たり、スタンプリバー化するのでしょう。

周囲の観光資源との連携も課題です。日前宮、竈山神社、伊太祁曾神社への三社参りのための鉄道として大正5年に開業した歴史ある路線ですが、従来のご利益と客層とは別に、たまのブームと相乗効果のある周遊観光戦略が必要です。アニメなどの物語の創造、ご利益と巡礼路の創造、イベント創設なども検討に値します。

■地域ネコ

「地域ネコ」とは、野良猫だけでなく地域の人がエサをやるなどの面倒をみており、地域や家に住み着いているネコたちで、たま駅長もそれでした。ネコが路上や塀の上で、のんびりしているまちは、人々も穏やかで親切です。逆に、

ネコがうろつけないまちは落ち着きません。都会では車が多く危険で、施設や店舗の邪魔になりますし、公園や寺社などに捨てられますから、地域ネコは嫌われます。

ネコは日本各地の歴史と文化に深く関わっており、いなかではたくさん暮らしています。養蚕農村ではカイコを食い荒らすネズミ除けとしてネコを飼っていた時代があり、今でも半分野良猫で、放し飼いです。漁港ではネコが大漁を呼ぶと信じられ、餌も豊富だったため、ネコの天国です。有名な所では、宮城県の松島湾に浮かぶ田代島、瀬戸内海に浮かぶ岡山の真鍋島、愛媛の青島です。

●田代島

宮城県石巻市に属する田代島の「田代島にゃんこ・ザ・プロジェクト（田代島にゃんこ共和国）」は、東日本震災の復興を目的に、地元でかき養殖に携わる漁師と有志が立ち上げた支援基金プロジェクトです。

釣り客以外訪れることのなかった離島ですが、猫島と呼ばれて以降は、島の個性的な猫達を見に、若者や家族連れ、さらには海外からの観光客で賑わいをみせるようになっていました。平成20年には三千人強だった観光客が、震災前年の平成22年には四倍近くに増え、石巻市も島の観光を支援しようとした矢先の被災でした。漁の道具、網や船、かき棚、むき場設備、住宅への被害も多く、島民60

田代島のネコ 宮城県石巻市
(写真：田代島にゃんこ共和国)



人ほどの8割が高齢者ですから、再生のめどが立たない状況でした。そんな中、資金を使用する目的を明らかにして直接賛同者を募る運動が始まりました。

島を守るという伝説を持つネコにあやかり、その年の6月にホームページで募集を開始したところ、猫が縁で田代島を知っていた多くの方々のクチコミに後押しされ、想像できない早さで支援者が増え、わずか三か月ほどで目標金額に達することができました。その後「田代島にゃんこ共和国国民」の登録証を配布し、グッズ等の配送を行っています。

●真鍋島

真鍋島は岡山県笠岡市に属し、瀬戸内海の中程に位置する小島です。わが国最初の国立公園として昭和9年に指

定された瀬戸内海国立公園（笠岡諸島等の島々）の区域内にあり、源平合戦などで千年以上の歴史を有しています。かつて島の人口は約六百人。男は漁に、女は畑にという島で、花卉栽培で知られ、花の島とも呼ばれました。夏目雅子主演の映画『瀬戸内少年野球団』のロケ地としても有名になりました。今では過疎化が進み、人口約二百人の高齢化が進んだ島となっています。

この島に注目したのがネコ好きの人たちです。瀬戸内の島にはネコが多く見かけられますが、真鍋島は人の数よりもネコのほうが多い島として有名になりました。彼らが訪問するおかげで島に活気が出て、経営状態が厳しい船便の支えにもなっています。

確かに島のネコは数が多く、飼い猫と野良猫が入り混じり、のんびりと暮しています。美しい自然となつかしい街並。都会人がきさくな人々とネコに癒されるのも当然です。



真鍋島 岡山県笠岡市



食事中ですが、なにか？



あーうまかった！

■ネコ好きの巡礼へ

地方の人にはネコは日常ですが、都会人は積極的に触れ合いたいので、地方の観光地こそネコカフェが必要と思います。それは都会のようなネコカフェではなく、真鍋島のような、地域ネコがごろごろいる「場」で良いのでしょうか。

常滑にあるようなネコ関連のストリートファニチャーや公共(デザイン)も、もっと増えて良いように思います。ゆくゆくは「ネコのいる街並ネットワーク」などに発展すると、ネコ好きの巡礼も盛んになるでしょう。彦根の「ひこにゃん」などのゆるきやらも連携させましょう。全国にはたくさんさんの「ネコ型ゆるきやら」がいますから。